

「元気な十和田市」の

実現に向けて

無投票で再選を果たし、2期目の市政運営へと動き出した小山田市長。

2期目の抱負や今後の取り組みなどについてお聞きしました。

▼2期目の市政を担うに当たり、現在のお気持ちを聞かせください。

改めて責任の重大さを痛感し、市民の皆さんのご期待にお応えしていかなければならないという使命感で身の引き締まる思いです。
1期目は中央病院の経営問題に直面するなど財政再建を最優先に取り組んできました。財政再建はまだ道半ばですが、基金の積み増しも実現

まちを元気にするためには交流人口を増やしていく必要があります。特に東日本大震災の影響などにより大きく落ち込んだ観光客の回復を目指し、十和田湖畔地区では自然体験や食の魅力向上を図りながら、観光客だけでなく市民が十和田湖に足を運んでふるさとをPRできる取り組みを進めていきます。また、焼山地区では地区一帯を花・温泉・アートをキーワードに、体験・滞在型の観光振興に努めます。中長期的な取り組みになりますが、着実に事業を進めることで焼山地区の魅力向上につながるものと考えています。



市の豊かな資源を最大限に生かしたまちづくりを進めていく

9月には「北海道・東北B-1グランプリ in 十和田」を開催します。10万人規模の人数が予想されることから、中心市街地のみならず広く十和田市の元気づくりにつなげていきます。

でき、ようやく安定的な運営が可能になりつつあります。

一方では、市民の皆さんのご協力により、今後のまちづくりに向けての基礎ができつつあるものと、確かな手応えを感じています。

これまでの4年間の取り組み、経験をいかしながら、市民の期待に沿えるよう、さらなる前進を目指していきます。

▼2期目の市政運営の基本方針と抱負をお聞かせください。

今後の市政運営に当たっては、市民目線による信頼される政治姿勢を基本とし、3つのまちづくりの視点を大切に、市民の皆さんと引き続き元気な十和田市づくりにまい進していきたいと考えています。

②希望のある未来にむけて 子どもや孫が故郷に住みたいと思えるまちづくり

いよいよ4月には、事業費の節減を図りながら、遊休施設の活用、街中への機能分散などの見直しを図っていた、(仮称)市民交流プラザと(仮称)教育プラザの建設に着手します。(仮称)市民交流プラザは平成25年度末、(仮称)教育プラザは26年度末の完成を予定しています。両施設の整備を通じて、子どもから高齢者まで広く市民が集い、学習や福祉、市民活動などさまざまな活動を通じた交流・連携を深めることにより、元気な十和田市の実現を図っていきます。



▲隈研吾氏が設計を手掛ける(仮称)市民交流プラザ



▲安藤忠雄氏が設計を手掛ける(仮称)教育プラザ

西沢立衛氏による現代美術館とともに、世界的な建築家による建物が新たなまちの魅力を引き出す

▼3つのまちづくりの視点の具体的な施策をお聞かせください。

①元気な未来にむけて 市民が豊かさを実感し、活躍できるまちづくり

昨年、三沢市と共同で中心市宣言を行った定住自立圏構想が4月1日からスタートします。2市7町1村で構成される「上十三・十和田湖広域定住自立圏」の取り組みを推進し、他自治体と手を結びながら地域一体となって住民が安心して暮らし続けることができるように努めます。

また、本市の自治の基本理念、まちづくりを進めていくための基本ルールを定めた「十和田市まちづくり基本条例」が4月1日から施行されます。市民活動に対する支援を強化し、市民・議会・行政との協働に

子育て環境の整備については、すでに昨年から行っている小学生の入院費用の無料化を来年度は中学生まで拡大します。
また、中央病院の産科再開や子育て支援の拡充、教育環境の充実、次代を担う人材育成に努めます。

③安心な未来にむけて みんなが安心して暮らせるまちづくり

市民の健康と生命を守る砦である中央病院は、経営健全化、医師確保に向けた環境整備などに努め、経営安定を図り、高度医療の充実につなげていかなければなりません。



市民の健康と生命を守る砦、中央病院の経営安定は喫緊の課題

また、東日本大震災を教訓に、市民の安全安心を確保するため、緊急事態に適切に対処できる防災体制の整備、自主防災組織の充実を図るとともに、環境に配慮した自立・分散

よるまちづくりを推進し、本市の産業、教育、文化の振興につなげていきます。



昨年、定住自立圏形成協定を締結。4月1日から広域的な取り組みがスタートする

産業分野では、県内トップクラスの生産量を誇る農畜産物の付加価値を高め、農業の活性化を図るために6次産業化を推進し、農家所得の向上に結び付けていくとともに、加工品の開発などによる商工業の振興を図っていきます。

型エネルギーシステムの構築を目指し、25年度は中学校2校に太陽光パネルを設置するなど公共施設での再生可能エネルギーの導入を進めていきます。
▼市民へのメッセージをお聞かせください。

地方の果たす役割は、より一層重要性を増してきています。本市の独自性をいかしつつ、豊かな地域社会を構築していくためには、自治体が責任を持って取り組むことがこれまでに求められています。

そのためにも市民ニーズを把握し、地域の特性を十分にいかしながら創意工夫を凝らした市政運営に努めていかなければなりません。

今後、急速な人口減少と少子高齢化が進むことが予測され、財政事情が厳しくなる中、市が単独でできることは限られてきます。今後とも市民と行政の確かなパートナーシップのもと、広域的に連携しながら、市民の皆さんが住みよい安全安心なまちづくり、十和田市に生まれてよかったと自慢できる、誇りに思える、活力と魅力あふれる元気な十和田市づくりに全力で取り組んでいきます。

より一層のご理解とご協力をお願いいたします。